

## ◇編集後記◇

昨年春、東日本大震災の直後に編集委員会の副委員長をお引き受けしてから、はや1年が過ぎました。編集委員の顔合わせの会議が東京であったとき、関東地方の計画停電の対象外ではありましたが、駅の構内や大学の建物などが消灯していて暗かったことを記憶しています。現在でも被災地では、がれき処理、原発事故による放射能汚染への対応、復興作業などに追われ、その過程で様々な産業医学および環境医学に関連する問題が発生しています。先日、テレビで見た春の園遊会のニュースの中で、天皇陛下が被災地の知事に、がれきにはアスベストなどの有害な物質が含まれており、処理の際はお気をつけ下さいとの趣旨のお話をされたのが印象的でした。今後長期間にわたる震災対応において、産業医学に携わる研究者やスタッフが果たすべき役割がまだ多く残されていると感じます。産衛誌では「東日本大震災特集」として、今月号の放射性物質への対応に関する話題を含め、これまでいくつかの論文が掲載されています。引き続き、皆様からの投稿をお待ちしております。

産業医学とは学際的な研究分野であり、労働現場における諸問題に対して、集団を対象とする疫学研究から、生化学や分子生物学を応用した実験研究を含む幅広い手法を駆使して、その解決法を探索する学問と考えています。編集委員として、これまで産衛誌やJOHに投稿された数々の原稿を拝見してきました。例えば、労働現場（特に発展途上国）における化学物質による健康障害に関する原稿がしばしば投稿されてきます。このような事例を科学的手法で解析し、成果を論文にまとめて問題提起することの重要性を改めて実感しています。私自身はこれまで実験研究を中心に行ってきましたが、現場レベルの問題に対する解決法を実験的手法により解明し、その成果を再び現場に還元するという双方向的な連携が確立出来れば理想的だと思います。産衛誌やJOHの論文をきっかけとした、新たな知の創造と産業医学研究の発展に微力ながら貢献していければと思います。今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

(平工雄介)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：益島 茂（三重大）

副委員長：樺田尚樹（国立保健医療科学院）、杉森裕樹（大東文化大）、高尾総司（岡山大）、  
玉腰暁子（北海道大）、那須民江（中部大）、西田和子（久留米大）、平工雄介（三重大）、  
藤野善久（産業医大）、毛利一平（三重大）、八谷 寛（名古屋大）

石竹達也（久留米大）、井上和男（帝京大）、岩崎健二（独法労働安全衛生総研）、植嶋一宗（津保健福祉事務所）、  
梅津美香（岐阜県立看護大）、小笹晃太郎（放射線影響研）、萱場一則（埼玉県立大）、川口陽子（東京医歯大）、  
熊谷信二（産業医大）、黒沢洋一（鳥取大）、近藤尚己（東京大）、酒井一博（労働科学研）、佐々木美奈子（東京  
医療保健大）、菅沼成文（高知大）、田中昭代（九州大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、  
中村裕之（金沢大）、馬場園明（九州大）、原田浩二（京都大）、東 尚弘（東京大）、福島哲仁（福島県立医大）、  
堀口兵剛（秋田大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、三宅達郎（大阪歯大）、村田勝敬（秋  
田大）、八幡勝也（産業医大）、大和 浩（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、渡邊博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番